協定留学体験記

●留学先　　：ディーキン大学（オーストラリア）
●留学期間（実際の現地滞在期間）：2023 年 2 月～ 2023 年 10 月
●学部・学科　：社会学部メディア社会学科
●留学時の学年：4 年

私はオーストラリアのディーキン大学に約 9 カ月間留学していました。この留学を通して、想像していた以上に自分を成長させることができたと思います。語学力の向上はもちろんのこと、新しい体験や挑戦が数多くありました。

ディーキン大学のカリキュラムは日本とは異なり、オンライン授業と対面授業が週に一回ずつ行われ、この2つが組み合わさってひとつの授業単位になります。基本的にはオンライン授業でその週の学習内容を把握し、ディスカッションベースの対面授業でそれらについて意見交換を行う形式です。はじめは授業内容を理解するのに時間がかかり、活発なディスカッションについていけない時が多かったです。授業に遅れをとらないために、特に予習に力を入れていました。授業までに読む資料が多く時間がかかりましたが、事前に疑問点を洗い出し、分からないところは調べてまとめるよう心掛けました。大学では広告や出版関連についての授業を履修していました。印象的だったのは広告の授業です。どの教授からも共通して“もっと自由に”という助言を受けました。組織やモノを宣伝するとき、従来の型にはまったありきたりなアプローチではなく、もっと突拍子もないアイデアや常識外れなアプローチのほうが人を惹きつけやすいと教わりました。広告は何をやってもいい、誰もが自由に表現できるものだという考え方はとても新鮮で、常に新しいアイデアを考える際の軸になりました。

勉強をする際には図書館をよく利用していました。ディーキン大学の図書館には静かに勉強したい人向けのフロアやディスカッションスペースがあり、用途に合わせて様々な使い方ができたのでとても便利でした。授業前後の予習・復習や課題のほかにも、授業で使った資料をまとめたり読書をしたりもしました。また、テスト期間には図書館が 24 時間開館されていたため、朝から夜までレポートを書く時もありました。

授業に慣れてからは、週一度のボランティア活動にも参加しました。私が参加していたのは、無料で人々に食料を配るボランティアです。メルボルンには留学やワーキングホリデーで滞在して間もない人や、ホームレスの方が多くいます。こういった人々に対して無償で食べ物を供給したいという業者や農家から集まった食品を、週 1 回倉庫で食料配布をしていました。ボランティアに参加していた人のほとんどが海外から来た人で、普段は関わることのない幅広い年代の人とも交流ができました。また、厳しい生活状況にある人や路上で生活している人の話を聞いたり、想像以上に多くの人が物資を寄付してくれている現状に驚いたりと、テレビで見ていただけの社会問題を直接目の当たりにしている実感がわきました。このボランティア活動は、人々の感謝の言葉にやりがいを感じるだけでなく、実際に社会問題に対面して考える機会になりました。

私が留学を通して痛感したことは、自分から行動を起こすことの重要性です。はじめは海外に行けば環境が自分を変えてくれると思っていましたが、実際に滞在してみて、待っているだけでは日本とほとんど変わらない生活になることに気づきました。授業についていくために勉強方法を工夫したり、自分の考え方や視野を広げるためにやったことのないことに挑戦したりと、留学を通して積極的に様々なことをやってみる習慣が身についたと思います。また、知らない土地で誰も知らない状況での生活は自分と向き合う時間を増やし、自己判断能力を向上させる機会にもなりました。このような意味で今回の留学は、英語や知識を身につけるだけでなく、人としても成長できた貴重な経験でした。社会に出ても今回の経験を忘れずに生かし、自分の成長に繋げていきたいです。